



目次	
○令和5年度をふり返って	1
○令和6年度 研究の進め方	2
○事務局だより	4

第 56 号

令和5年度をふり返って

福島県中学校教育研究会技術・家庭部長 福地 淳一



令和5年度は、研究主題「生活の営みや技術に係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するための指導はどうすればよいか」の2年次として、副主題「主体的・対話的で深い学びを展開するための指導過程の工夫」として、見通しを持って課題解決に取り組み、学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定したり、自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識する場面を設定したりすることで、自己の考えを広げ深めることができる展開の工夫について研究を進めてきました。

5月11日の支部専門部長会兼主題研修会では、部長に加えて専門教科の先生も参加が認められ、より専門的に研修を深めることができました。

10月5日の県いわき大会では、いわき市立磐崎中学校といわき市立内郷第一中学校をオンラインで結んで開会式を行った後、各校でそれぞれ技術・家庭分野の研究協議、研究授業を行いました。授業提供者の磐崎中学校の鈴木大輔先生、内郷第一中学校の山際奈々先生はじめ、開催いただいたいわき支部の皆様、各支部、会員の皆様のご参加、ご協力、誠にありがとうございました。

11月4日には4年ぶりに第7回福島県「あなたのためのおべんとうコンクール」最終審査会を福島市の福島ガスショールーム PROME「プロメ」で開催し、書類選考を勝ち抜いた4チーム7名が参加しました。

11月25日には「中学生創造アイデアロボットコンテスト」福島県大会を、こちらも4年ぶりに開催しました。須賀川市民文化センター「tette」を会場に、県独自のロボット相撲部門、全国大会につながる基礎部門、計測・制御部門、応用・発展部門それぞれエントリーがあり、県内2校25名が参加、熱戦を繰り広げました。当日は多くの支部長様、県内各地の校長先生、岩瀬地区の先生方に役員・審判と多大なご協力をいただき、運営することができました。この場をお借りして深く感謝いたします。

どちらの行事でも、参加した生徒、先生方からは「実際に競技を見て、とても興味深く面白かった。」という意見を数多くいただき、技術・家庭科の楽しさや教科の重要性をアピールする数少ない機会としても大事にしていきたいと感じました。

令和6年度は、研究3年次の最終年度、副主題は「よりよい生活の実現のため、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するためのふり返りの工夫」です。ふり返し活動は、学習をふり返し、学びを定着させるために大変重要な意味を持つ学習活動です。学びを深めるために、ふり返し活動をとおして、学びの中における生徒の成長・変容を明らかにする方法について研究していただきます。実生活へのふり返しや一単位時間のふり返しはもちろん、各内容の終了時、学期のふり返しなど、視点、観点はたくさんあります。6年度は3年間の研究のまさに「ふり返し」でもあります。ぜひ、研究実践を深めて、共有してまいりたいと思います。

令和6年度 研究の進め方

1 令和5年度の研究の成果と課題

(1) 成果

技術分野

- 課題解決段階の指導過程の作成
 - 構想したものが実際に形になり見えてきた新たな課題や、話し合いを通して自分では気づけなかった構造上の工夫やアイデアを発見し、それらを取り入れながら製品の最適化を検討することができた。
 - 1週間に一度の授業のため、生徒が前時の学習を思い起こすため、作業内容や話し合いを記録した学習カードが有効であった。
 - 学習課題に「最適な」という表現を入れて提示することで、その条件下でプログラムを作成しようとする意識を持たせることができた。また評価する段階での必要なキーワードになった。
 - 生徒の実態に合わせてどのような学びをねらってテーマをクローズアップさせるか、準備と気づきの大切さを実感しながら教師の評価や視点の意識が生徒の自主性を高め、主体的な課題解決につなげることができた。

家庭分野

- 課題解決段階の指導過程の作成
 - 生徒間で取組について発表を聞き、実践内容を共有することで考えを深め、さらに生活を改善しようとする意欲につながった。また、支援が必要な生徒も「自分だったら…」と考えるきっかけにすることができた。
 - 家庭の安全対策について、個別の避難計画を立てさせたり、学校が避難所になったときに中学生ができることを想定して提案させたりして、様々な実践を考えさせることができた。
 - 環境問題や消費生活は、家庭科の各単元と兼ね合わせて指導することができる。実態を踏まえて、実生活に即した学習課題を設定し、問題解決型の学習に取り組み、自分のこととして捉え、主体的に取り組もうとする意欲を高めることができた。

(2) 課題

技術分野

- 生徒が社会や家族の思いを知り、その思いに寄り添えるような生物育成の学習の必要性、実社会と実生活のつながりの重要性を学ばせていく必要がある。
- 主体的に学習を進められるように、教師がヒントとして提示したものをタブレットなどでそれぞれ調べさせるなどの時間の確保が必要である。生徒自らが答えを導き出せるようコーディネートの工夫が必要。
- 指導する内容に対して授業時数の確保が難しい。他教科との「カリキュラムマネジメント」を図りながら、指導にあたりたい。
- 県全体の本教科に関するICTを活用した情報共有の場を設定してほしい。

家庭分野

- 幼児の学習を通して衣・食・住・遊びなど、生活の課題と実践として、幅広く追究することで、育成すべき資質や能力が明確になりさらに学びを広げることができると考える。
- 授業で学習したことや考えたことを家庭生活に反映させるための取組を実践したいが授業の中で時間を確保することが難しい。
- 社会を担う一員として、自分や家族の生活の課題だけでなく、社会の現状を見据えて裾野を広げ、自分に何ができるのか「見方・考え方」を身につけさせていきたい。
- 生徒にもっと考えさせたい場面が多い領域や、実習時間をしっかり確保したい領域も多く、限られた時数の取り扱いが難しい。

2 研究主題・副主題

研究主題		研究主題設定の趣旨
<p>生活の営みや技術に係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するための指導はどうすればよいか</p>		<p>子どもたちには、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けることが求められている。生活の中から問題を見だし課題を設定し、見通しを持ってそれを解決したり、生活を工夫し創造したりする資質・能力の育成を目指す。</p>
研究副主題		研究推進の概要（内容・方法）
令和4年度	<p>生活や社会の中から課題を見出し、見通しを持って解決しようとする課題設定の工夫</p>	<p>生徒の実態を把握し、生徒に身に付けさせたい資質・能力を明らかにした上で、生徒が見通しを持ってより主体的に取り組み、深い学びへつながる課題設定の工夫について研究する。</p>
令和5年度	<p>主体的・対話的で深い学びを展開するための指導過程の工夫</p>	<p>他者と対話したり協働したりする中で、見通しを持って課題解決に取り組み、学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定したり、自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識する場面を設定したりすることで、自己の考えを広げ深めることができる展開の工夫を追究したい。</p>
令和6年度	<p>よりよい生活の実現のため、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するためのふり返りの工夫</p>	<p>振り返り活動は、学習を振り返り、学びを定着させるために大変重要な意味を持つ学習活動である。学びを深めるために、振り返り活動をとおして、学びの中における生徒の成長・変容を明らかにする方法について研究する。</p>

※ 詳しくは、「令和6年度 研究の進め方」（別紙）をご覧ください。

事務局だより

令和5年度はコロナ禍明けで、様々なものが4年ぶりに開催されました。

10月27日、東北地区秋田・湯沢雄勝大会が参集型で行われました。研究授業は、事前に録画・配信されたものを前日までに視聴しておき、研究協議に参加しました。授業は、技術・家庭科とも、ゲストティーチャーを交えたもので問題解決に向けて生徒が主体的に取り組む様子が大変よく感じられるものでした。県代表として、東西しらかわ支部から白河市立中央中学校の菊地寿孝先生、矢吹町立矢吹中学校の高倉弘文先生に「生物育成の技術」、伊達支部から伊達市立伊達中学校の佐々木智子先生に「消費生活・環境」の研究発表をしていただきました。

11月10日には全日中静岡大会が参集型で開催され、静岡県内8カ所で授業、研究協議が行われました。すべて対面型で行われ、材料と加工の技術の授業は、「振動スピーカーの製作」という題材で、ヒノキの板を蒸気で曲げて反響板をついたり、コイルと磁石でボイスコイルを作り、自分の出したい音色が出る振動版の材料を試行しながら探し出したりする授業でした。

それぞれの大会から感じたことは、生活と地域との関連や生徒の興味・関心を高めるための題材の開発など、まさに私たちが日頃努力していかなければならない根本を見せていただいた印象を持ち、自分たちがもっと研修する機会を設けること、教師自らがそれを求めていく気概が必要と感じました。

1月20日（土）には第23回全国中学生創造ものづくり教育フェアが東京都内で開催され、創造アイデアロボットコンテストは中央区総合スポーツセンターで開催され、本県からは基礎部門で須賀川市立第二中学校の4チーム、計測・制御部門で福島市立吾妻中学校から1チームが出場しました。基礎部門で、須賀川市立第二中学校の「飛鳥文化アタック」が審査員特別賞を受賞しました。

1月21日（日）の「あなたのためのおべんとうコンクール」は、女子栄養大学駒込キャンパスで開催、県代表の本宮市立第二中学校「旬の彩り弁当けん浩！向上委員会」が出場し、東京都公立中学校PTA協議会会長賞を受賞しました。

令和6年度の各大会日程は次のとおりです。現地開催の予定ですが、オンライン開催等の変更の可能性もあります。

- 県研究協議会 いわき大会
(6年度から教科毎の分散開催)
10月4日（金）技術
いわき市立平第二中学校
家庭
いわき市立泉中学校
- 全国・東北大会
11月14日（木）山形テルサ
11月15日（金）山形市立第三中学校
内容別分科会福島県発表
技術 A エネルギー変換の技術
家庭 B2 衣食住の生活（衣住生活）

◎ お知らせ

令和7年度は東北大会が6年ぶりに福島県で開催されます。東北に誇れる福島県の技術・家庭科に対する情熱を公開すべく、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

年々減少する会員の確保が大きな課題となっています。技術・家庭科の楽しさ、奥深さをともに学べるこの研究会は教科にとって唯一無二のものと思っています。存続を維持するためにも会員の維持・新規加入を強く望むものです。皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

福島県中学校教育研究会技術・家庭部報第56号
発行責任者：福地 淳一（福島市立信夫中学校）
編集責任者：中教研技・家部会事務局 広報部
